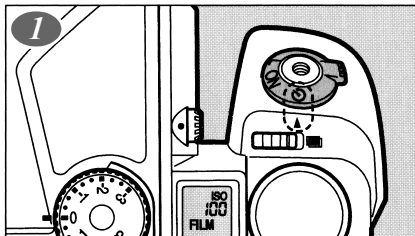
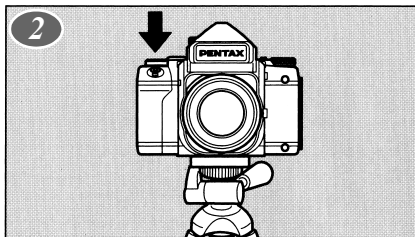
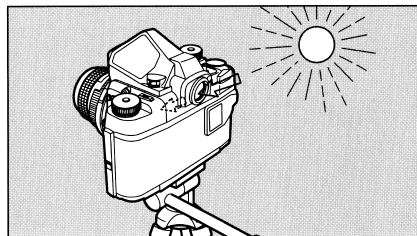
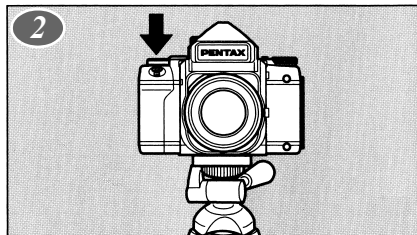
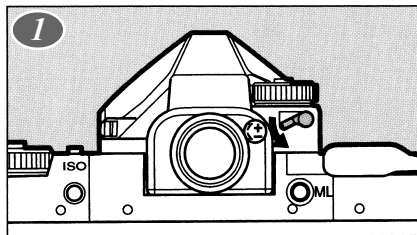
セルフタイマー撮影

セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。
シャッターボタンを押すと、約12秒後にシャッターが切れます。

● セルフタイマーの作動中は電子音で知らせ、シャッターが切れる約2秒前から、電子音も速い断続音「ピッピッピッ」になります。
● セルフタイマーを始動後に中止したいときは、電源スイッチを⏲以外の位置にしてください。

1 電源スイッチを回して⏲位置に合わせます。

2 写したいものにピントを合わせ、シャッターボタンを押し切るとセルフタイマーが始動します。

逆入射光防止について

● 逆入射光防止レバーを下側にすると、ファインダーの中は何も見えなくなります。必要ないときは、上側にしておいてください。

セルフタイマー撮影などで、カメラのファインダーから目を離す前に、逆入射光防止レバーを下側に動かします。

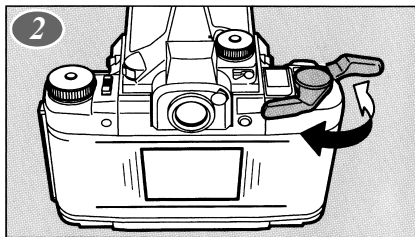
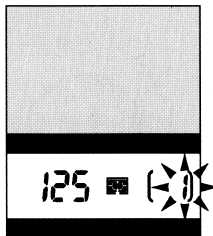
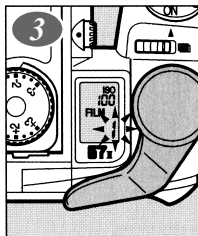
シャッターボタンを押して撮影します。

逆入射光について

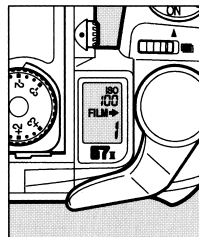
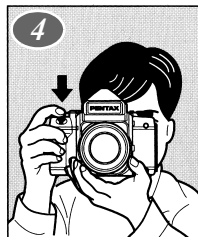
セルフタイマー撮影などで、シャッターが切れるまでの間にファインダー部から目を離すと、この部分から入る光の影響で露出に誤差を生じることがあります。逆入射光防止レバーを使用することで、この影響をなくすことができます。

多重露出について

フィルムの同じコマに重ねて撮影できますので、アイデア次第でおもしろいトリック写真などを作ることができます。

多重露出レバーを矢印方向に動かし、その後、そのまま巻き上げ操作をします。

この状態ではフィルムは巻き上げられませんので、前に写したコマと重なって写ります。

巻き上げレバーが元の位置に戻ると表示パネルとファインダー内のフィルム枚数が点滅します。

- 多重露出レバーの操作は、巻き上げレバーを動かす前に必ず行ってください。コマずれを起こすことがあります。
- 多重露出では、撮影したコマにずれを生じることがあります。
- 途中まで巻き上げ操作を行えば、多重露出レバーから手を放してもだいじょうぶです。

–つづく–

シャッターを切ると、フィルム枚数の点滅は止まり通常撮影に戻ります。

–つづき–

● 例えば3コマの多重露出の場合、2コマ目の撮影後、多重露出レバーを同様にセットしてから巻き上げを行ってください。

● 多重露出では、暗いものを背景にして、ストロボ光を当てた人物などを重ねると比較的良い結果が得られます。

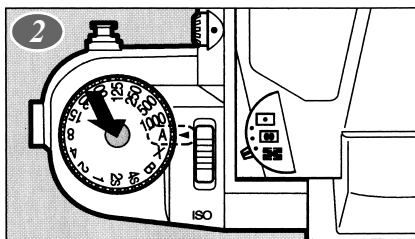
● 多重露出をセット後に解除することはできません。セット後に多重露出の必要がなくなった場合は、レンズキャップをし、シャッター速度を1/1000秒、絞りを最小絞りにして、暗い所でシャッターを切ってください。

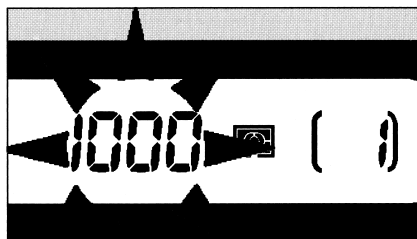
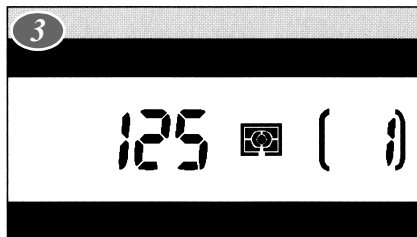
● 規定枚数の最後のコマでも通常と同じ方法で多重露出ができます。ただし、規定枚数終了時は、フィルム枚数表示の「－－」が点滅していますので、この状態で多重露出をセットすると、120フィルムでは「10」、220フィルムでは「21」の点滅に戻り、再びシャッターが切れる状態になります。必ず多重露出レバーを操作してから巻き上げを行なってください。

いろいろな露出モードを選びます

絞り優先自動露出の使い方

希望の絞りに合わせると、写す物の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わります。

1. レンズの絞りリングで絞り値を合わせます。

2. シャッターダイヤルロック解除ボタンを押しながら、シャッターダイヤルを[A]位置に合わせます。

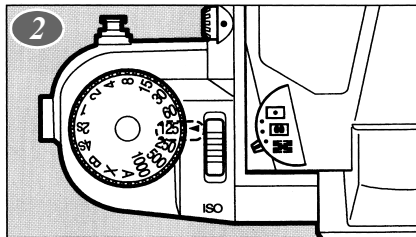
● シャッターダイヤルを Ⓐ 位置から外す場合にも、シャッターダイヤルロック解除ボタンを押しながら回してください。
● 絞り優先自動露出は、別売りの「AE ペンタプリズムファインダー67Ⅱ」を取り付けていないと使用できません。

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度、フィルム枚数、測光方式が表示されます。

露出警告

写したい物が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内のシャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎるときは絞りを小絞り側［数字の大きい方］に、暗すぎるときは絞りを開放側［数字の小さい方］にして点滅が止まれば撮影できます。
なお、絞りを変えても点滅が止まらない場合は測光範囲外ですから、適正露出は得られません。明るすぎるときは、ND フィルターなどをお使いいただくか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

マニュアル露出の使い方

常に同じシャッター速度と絞りの組み合わせで撮影をする場合や、意図的に露出オーバー［明るい写真］や露出アンダー［暗い写真］にするときに使います。

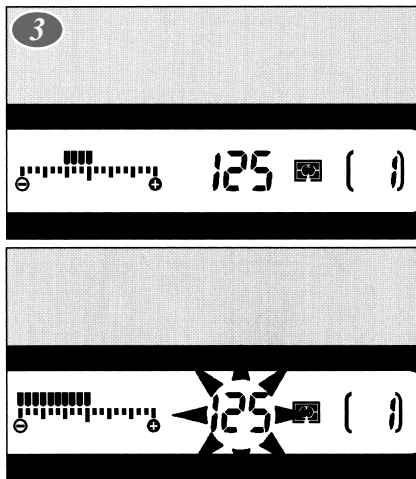
1 レンズの絞りリングで絞り値を合わせます。

2 シャッターダイヤルを A 位置以外の使いたいシャッター速度に合わせます。

シャッターダイヤルを[A]位置から[A]位置以外にする場合には、シャッターダイヤルロック解除ボタンを押しながら回してください。

ストロボ撮影で、シャッター速度を1/30秒に固定したい場合や、シャッター速度が自動的に切り替わらないストロボを使用するときはシャッターダイヤルを[X]（1/30秒）位置に合わせてください。

● シャッターダイヤルを[X]位置にしたり、[X]位置から外すときはシャッターダイヤルロック解除ボタンを押しながら回してください。

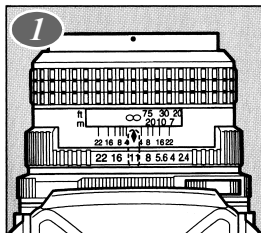
● バーグラフの ▮ が ⊖ 側に並んでいるときは露出不足、⊕ 側に並んでいるときは露出がオーバーです。中心にあれば適正露出です。バーグラフの ▮ 1個は1/3段階［1/3EV］に相当します。ただし、±3段階［±3EV］を超えた場合は、⊖ あるいは ⊕ が点滅表示します。

● 別売りの「AEペンタプリズムファインダー67 II」を取り付けていないとファインダー内のバーグラフは表示されません。

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度、バーグラフ［図の場合は－1EV］、フィルム枚数、測光方式が表示されます。

露出警告

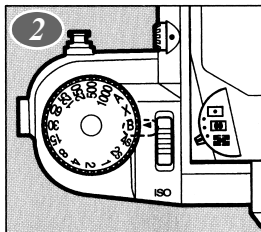
写したい物が明るすぎたり暗すぎて、シャッター速度表示が点滅したときは、測光範囲外ですから、シャッター速度や絞りを変えても適正露出は得られません。明るすぎるときは、NDフィルターなどをご使用いただくか、もう少し暗いところにカメラを向け直してください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

バルブの使い方

花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。

レンズの絞りリングで絞り値を合わせます。

シャッターダイヤルをⒷ位置に合わせます。

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に bu が表示されます。

バルブで撮影するときは、ぶれ防止のためしっかりとした三脚を使用し、別売りの「ケーブルレリーズ」をレリーズネジ穴にねじ込んでご利用ください。

- 「ケーブルレリーズ」でもシャッターボタンの半押しができますので、ファインダー内表示を点灯させることができます。
- 新品電池でのバルブ撮影可能時間については、14ページをご覧ください。

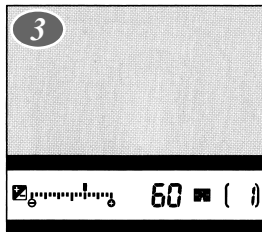
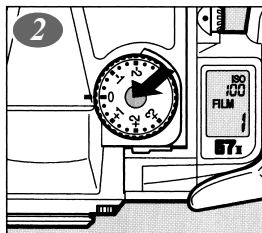
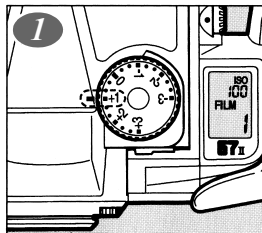
露出補正について

意図的に露出オーバー［明るい写真］や露出アンダー［暗い写真］にしたいときなどに使います。

● 露出補正はバルブでは使えません。

● 露出補正は、－3～＋3段階［EV］の範囲で1/3段階［EV］ごとに行なえます。

● バーグラフの I の移動量1つが1/3段階［EV］に相当します。

● マニュアル露出での露出補正では、ファインダー内に露出補正値を示すバーグラフは表示されず、マニュアル露出のオーバー・アンダーを示すバーグラフと ± が表示されます。バーグラフの I を中心に合わせれば、設定した補正値での撮影ができます。

露出補正ダイヤルを回して、補正値を選びます。

0 位置から別の位置に切り替えるときは、露出補正ダイヤルロック解除ボタンを押しながら回してください。

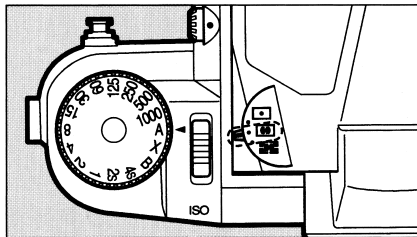
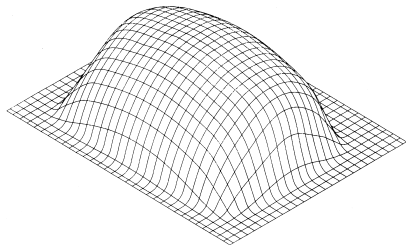
ファインダー内に補正値を示すバーグラフと ± が表示されます。

分割測光以外の測光モードを使ってみましょう

このカメラでは、撮影者の好みで測光モードを分割測光から中央重点測光あるいはスポット測光に切り替えることができます。

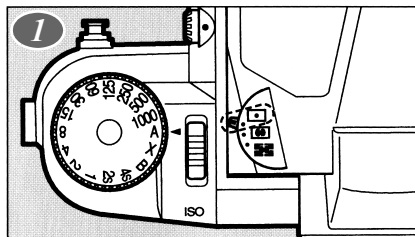
- 分割測光のようにカメラ任せで露出を決めるのではなく、経験的に補正をして明るさを決める場合などにご利用ください。

中央重点測光を使います

中央重点測光は、従来からのオーソドックスな測光方式です。

測光方式切り替えレバーを位置に合わせます。ファインダー内にが表示されます。

測光分布は、図のようになっており、高さが高い部分（中央部分）ほど感度が高いことを表わしています。

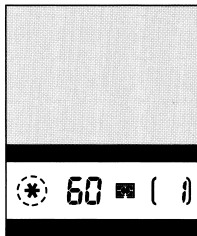
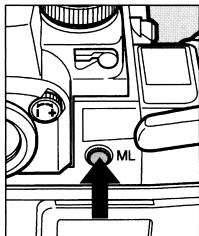
スポット測光を使います

スポット測光は、限られた狭い範囲だけの明るさを測りたいときに使います。

測光方式切り替えレバーを⊡位置に合わせます。ファインダー内に⊡が表示されます。

図のように、中央の限られた狭い範囲だけの明るさを測ります。

● 中央部とそれ以外の周辺部との明暗差が大きい場合には、全体の明るさを考慮して露出を決めないと、不自然な写真になってしまいます。

メモリーロック撮影について

メモリーロックは、撮影前の露出をカメラに記憶させるもので、スポット測光と組み合わせて使用すると便利です。被写体が非常に小さく適正露出を得るのが難しい状態のときなどにお使いください。

メモリーロックボタンⓂⓁを押すとその時点の露出が記憶され、ファインダー内に[✱]が表示されます。

- メモリーロックボタンⓂⓁを押してから約20秒間はタイマーが働き、ボタンから指を放しても露出が記憶されています。
- メモリーロック中にシャッターボタンを半押ししたままにすると、メモリーロックボタンⓂⓁから指を放してもメモリーロックはそのまま継続します。
- メモリーロック中にもう一度メモリーロックボタンⓂⓁを押すと解除できます。
- マニュアル露出ではメモリーロックはできません。
- 撮影後メモリーロックは解除されます。

外付けストロボの使い方

TTLオートで使います

AF540FGZ・AF360FGZ・AF500FTZ・AF330FTZ・AF400FTZ・AF240FT・AF280T・AF200Tの場合

* 上記の各ストロボをご使用いただくためには、別売りのホットシューグリップ67IIが必要です。

1 カメラにホットシューグリップ67IIを取り付けます。
2 上部の黒いカバー（ホットシューカバー Fc）を取り外します。
3 ストロボを取り付けます。
4 コードを接続し撮影します。

- カメラへのホットシューグリップ 67II の取り付け方については、ホットシューグリップ67IIの説明書をご覧ください。
- 絞り優先の場合や、シャッター速度を1/30秒～1/1000秒に設定した場合、ストロボの充電完了時シャッター速度が1/30秒固定となります。
- ストロボの充電が完了すると、カメラのシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内と表示パネルの⚡も点灯します。
- 絞り優先で充電が完了すると、自動的にマニュアル露出に切り替わり、ファインダー内にバーグラフが表示されます。バーグラフは背景の露出値を示しています。バーグラフについては50ページをご覧ください。
- 外付けストロボの詳細については、外付けストロボの説明書をご覧ください。
- ストロボの電源はコードを接続してから入れてください。

AF400Tの場合

* AF400Tをご使用いただくためには、別売りの67AF400Tブラケット及び、4PシンクロコードAが必要です。

1. AF400Tブラケット67Ⅱを利用してAF400Tをカメラに取り付けます。

2. 4PシンクロコードAで接続し撮影します。

- カメラへのAF400Tブラケット67Ⅱの取り付け方については、AF400Tブラケット67Ⅱの説明書をご覧ください。
- 絞り優先の場合や、シャッター速度を1/30秒～1/1000秒に設定した場合、ストロボの充電完了時シャッター速度は1/30秒固定となります。
- ストロボの充電が完了すると、カメラのシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内と表示パネルの⚡も点灯します。
- 絞り優先で充電が完了すると、自動的にマニュアル露出に切り替わり、ファインダー内にバーグラフが表示されます。バーグラフは背景の露出値を示しています。バーグラフについては50ページをご覧ください。
- 外付けストロボの詳細については、外付けストロボの説明書をご覧ください。
- AF200T、AF280Tでは、別売りのホットシューグリップと組み合わせて、AF400Tと同じ使い方ができます。詳しくは、AF400Tブラケット67Ⅱの説明書をご覧ください。
- ストロボの電源はコードを接続してから入れてください。

露出補正について

TTLオートストロボ撮影で露出補正を行なうと、ストロボの光量だけが変化し、バーグラフのIを中心に合わせせると、背景とストロボ光の両方が補正されます。

外光オートで使います

AF200T、AF280T、AF400Tの場合

外光オート［赤・緑・黄位置］で使用する場合、絞りを下表の値に合わせてください。絞り優先の場合や、シャッター速度を1/30秒～1/1000秒に設定した場合、充電が完了すると、シャッター速度は1/30秒固定になります。

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F2.8	F4	F4
緑	F5.6	F8	F8
黄			F11

［ISO 100の場合］

外付けストロボの多灯撮影

2個以上の外付けストロボを同時に使用する場合は、61ページのストロボ機能一覧表の同じタイプどうしを組み合わせるか、TYPE AとTYPE BあるいはTYPE CとTYPE Dの組み合わせでお使いください。

AF540FGZ、AF500FTZ、AF330FTZ、AF360FGZ

●絞り優先の場合や、シャッター速度を1/30秒～1/1000秒に設定した場合、充電完了後シャッター速度が1/30秒（後幕シンクロ、光量比制御シンクロでは1/15秒）に固定されます。
●このカメラでは、オートズーム機構は使用できませんので、マニュアルズームで焦点距離をセットしてお使いください。
●AF500FTZ、AF360FGZとの組み合わせでは、スレーブ機能［コードレス］がご利用できます。
●AF500FTZとの組み合わせでは、マルチ発光モードがご利用できます。
●充電完了後およそ3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

AF240FT、AF400FTZ

●絞り優先の場合や、シャッター速度を1/30秒～1/1000秒に設定した場合、充電完了後シャッター速度が1/30秒に固定されます。
●充電完了後およそ5分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

AF200T、AF280T、AF400T

●TTLオートの他、外光オートでも使用できます。
●絞り優先の場合や、シャッター速度を1/30秒～1/1000秒に設定した場合、充電完了後シャッター速度が1/30秒に固定されます。

ストロボ機能一覧

カメラの機能	TYPE A	TYPE B	TYPE C	TYPE D
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度（1/30秒）に自動的に切り替わる。	○	○	○	○
表示パネルとファインダー内でオートチェックができる。	○	○		
TTLオートストロボ撮影ができる。	○	○	○ 注1	
マニュアル露出では低速シンクロができる。	○	○	○	○
後幕シンクロ撮影ができる。注2	○	○		
光量比制御モードで撮影できる。注2	○			

TYPE A： AF540FGZ、AF500FTZ注3、AF330FTZ、AF360FGZ
TYPE B： AF400FTZ、AF240FT
TYPE C： AF400T、AF280T、AF200T、AF200SA
TYPE D： AF200S、AF160、AF140

注1： AF200SAは不可。
注2： シャッター速度は1/15秒以下となります。
注3： マルチストロボ、スレーブ機能が働きます。

その他のストロボを使用した場合

●他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。
●スタジオ用の大型ストロボでは、極性が逆になっている物があります。このタイプでは、67Ⅱと組み合わせてもストロボが発光しません。詳しくは、ストロボメーカーにご相談ください。また、大型ストロボでは後幕によるケラレを防ぐため、同調速度より一段低いシャッター速度での使用をお勧めします。
●カメラのXシンクロソケットのみにコードを接続した場合は、連動機能は働きません。

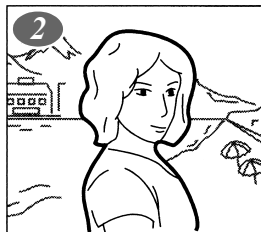
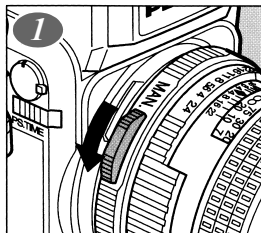
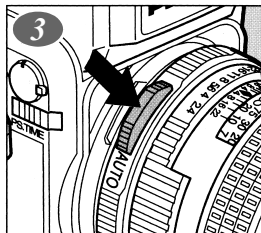
低速シンクロについて

夕景などを背景に人物撮影をするとき、低速シンクロを利用すると人物も背景もきれいに写せます。

- 1 の操作は撮影前のどの時点で行なっても結構です。
- 低速シンクロの場合は、カメラぶれを防ぐため三脚をご使用ください。

1. 露出モードをマニュアル露出にします。
2. ストロボの電源を入れます。
3. 適正露出になるようなシャッター速度［1/30秒以下の低速］と絞りを選んでください。
4. 撮影します。

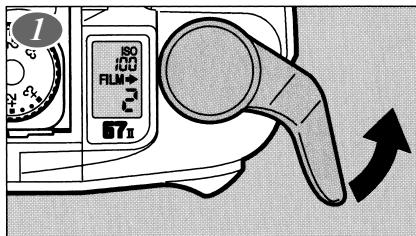
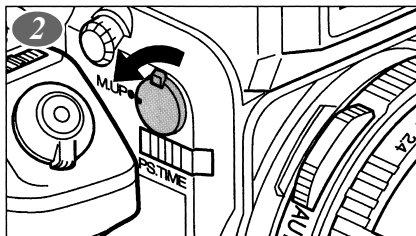
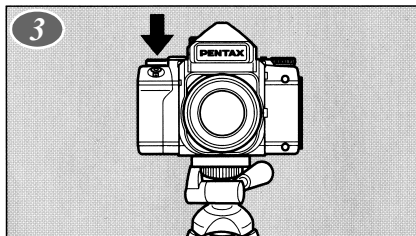
被写界深度の確認方法

レンズの自動絞り解除レバーを引き起こすようにしてMANの文字が見える位置にします。

この位置では、実際に設定している絞り値まで絞られますので、ファインダー内で深度の確認ができます。

元に戻すには、自動絞り解除レバーを軽く押してください。

- 実際にピントの合う範囲とファインダーで見える深度範囲には多少差がありますのでご注意ください。
- 自動絞り解除レバーが MAN の見える位置になっていると分割測光を選択しても中央重点測光になります。

ミラーアップについて

撮影前に予めミラーを上げておくことで、ミラーの振動を少なくして、カメラぶれの影響を軽減できます。

- ミラーアップを行なうと、自動的にメモリーロックが働き、露出が固定されます。
- 巻き上げをした後でないと、ミラーアップはできません。
- ミラーアップはセット後に解除することはできません。セット後にミラーアップの必要がなくなった場合、暗い所でシャッターを切り、多重露出の操作を行なってください。
- 電池がなかったり、消耗していると、この機能は働きません。また長時間ミラーアップを続けますと、電池が早く消耗してしまいます。

フィルムを巻き上げます。

ミラーアップレバーを図の方向に回すと、「カチッ」と音がしてミラーが上がります。

撮影します。

タイム露出（パワーセービングタイム）について

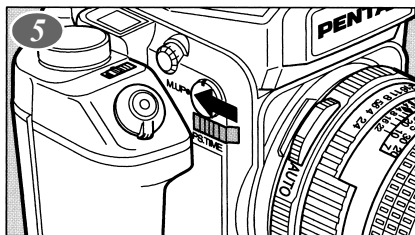
パワーセービングタイム時はほとんど電池が消耗しませんので、夜景や天体撮影などで、長時間シャッターを開き続ける必要があるときに使用します。

レンズの絞りリングで絞り値を合わせます。

タイム露出レバーを図の方向に動かします。

フィルムを巻き上げます。

- タイム露出レバーのセットはフィルムを巻き上げた後でも行えます。
- 電池がなかったり、消耗すると、この機能は働きません。

シャッターボタンを押すと指を放してもシャッターが開いたままになります。

タイム露出レバーを元の位置に戻すとシャッターが閉じて、タイム露出が終了します。

- シャッターダイヤルはどの位置でもかまいませんが、タイム露出レバーを元の位置に戻してもダイヤルでセットした時間が経過しないとシャッターは閉じません。
- ミラーアップとの組み合わせも可能です。

専用アクセサリー［別売］について

このカメラには、各種専用アクセサリーが用意されています。詳しくは、各サービス窓口にお問い合わせください。

●ケーブルレリーズ30/50
レリーズネジ穴のあるカメラに使えるレリーズコード。

●67マグニファイヤー
ファインダー中央部を拡大して見るアクセサリー。

●67正像アングルファインダー
ファインダーを見る角度を90゜間隔に変えることができるアクセサリー。

●フィルター
スカイライト・曇天用・UV・Y2・O2・R2・円偏光があります。

●オートストロボAF540FGZ
ガイドナンバーの最大値が54（ISO100・m）のオートストロボ。スレーブ機能や光量比制御モード、外光オート、ハイスピードシンクロ撮影、ワイヤレス撮影、先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

●オートストロボAF360FGZ
ガイドナンバーが最大36（ISO100・m）のオートストロボ。スレーブ機能や光量比制御モード、外光オート、ハイスピードシンクロ撮影、ワイヤレス撮影、先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

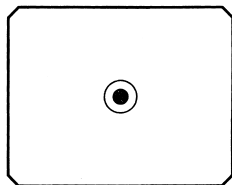
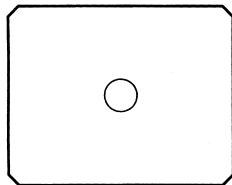
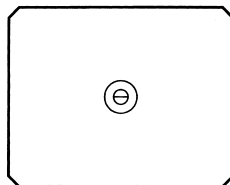
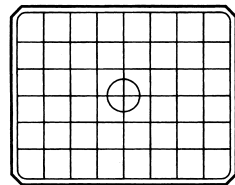
●ホットシューグリップ67Ⅱ
AF500FTZ・AF240FT・AF330FTZ・AF400FTZなどのクリップオンタイプのストロボをカメラから離して使うときのアクセサリー。

●ホットシューアダプターFG、延長コードF5P、オフカメラシューアダプターF
ストロボをカメラから離して使うときのアクセサリー。

●67AF400Tブラケット、AF400Tブラケット67Ⅱ
AF400Tを67や67Ⅱに付けるためのアクセサリー。

●クイックシュー
カメラと三脚の迅速な着脱を可能にするアクセサリー。

●交換フォーカシングスクリーン

フォーカシングスクリーンには、標準系（BA-61、BE-60、BB-61、BG-60）と望遠系（BA-81、BE-80、BB-81、BG-80）、合わせて8種類が用意されております。69ページにレンズ別の適合表がありますので詳しくはそちらをご覧ください。交換方法については、スクリーンの使用説明書をご覧ください。

● BA-61、BB-61、BE-60、BG-60は、ほとんどのレンズに使用できる一般的なスクリーンです。BA-81、BB-81、BE-80、BG-80は非常に明るいスクリーンですから望遠や開放F値の暗いレンズにご使用いただくと、ピントが合わせやすくなります。ただし、絞り込み測光では露出に多少誤差を生じることがあります。また、リアコンバーターを使用すると露出が多少オーバーになることがあります。

	BA-61	BB-61	BE-60	BG-60	BA-81	BB-81	BE-80	BG-80
smc PENTAX67 フィッシュアイ35mmF4.5	○	○	○	○	△	△	△	△
smc PENTAX67 45mmF4	○	○	○	○	△	△	△	△
smc PENTAX67 55mmF4	○	○	○	○	△	△	△	△
smc PENTAX67 75mmF4.5	○	○	○	○	△	△	△	△
smc PENTAX67 90mmF2.8	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAX67 105mmF2.4	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAX67 165mmF2.8	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAX67 200mmF4	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAX67 300mmF4	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAXM*67 400mmF4 ED（IF）	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAX67 500mmF5.6	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎
smcタクマー 67 600mmF4	○	○	○	○	○	○	○	○
smcタクマー 67 800mmF4	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAXM*67 800mmF6.7 ED	▲	▲	○	○	▲	▲	◎	◎
smcレフレックスタクマー 67 1000mmF8	▲	▲	○	○	▲	▲	◎	◎
smc PENTAX67 マクロ100mmF4	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎
smc PENTAX67 マクロ135mmF4	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎
smc PENTAX67 シフト75mmF4.5	▲	▲	○	○	▲	▲	△	△
smc PENTAX67 ソフト120mmF3.5	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAX67LS 165mmF4	○	○	○	○	○	○	○	○
smc PENTAX67 55-100mmF4.5	○	○	○	○	△	△	△	△

◎：特に使用に適すもの
○：使用に適すもの
△：ファインダー周辺が暗くなるもの
▲：スプリット、マイクロプリズムにかげりがでるもの

注意

望遠系スクリーンは、非常に明るいスクリーンとなっていますので、開放F値の暗いレンズにおいてもピント合わせが行いやすくなっています。ただし、露出に多少誤差が生じることがあります。

アクセサリーの注意

●AE ペンタプリズムファインダー 67II、ペンタプリズムファインダー 67II とも、マグニファイヤーあるいはアイカップを併用する場合、ファインダー接眼部のゴムリングを外してお使いください。ゴムリングを外した接眼部はあまり強く締めすぎると、取り外しにくくなることがあります。外れない場合、ストラップの裏側（PENTAXの文字がない面）で接眼部の枠を押さえて回転させると、取り外しやすくなります。

●一般の偏光フィルターを使用すると露出の精度が不安定になるおそれがあるため、円偏光フィルターの使用をおすすめします。

●絞り優先でオート接写リングを使用する場合、必ず絞りを絞り込んでから撮影してください。露出が合わなくなります。

リアコンバーターについて

●リアコンバーターと望遠系スクリーンを併用した場合、露出が多少オーバーになることがあります。

オートベローズについて

●下図のリング（接写リング外爪1号）が付属されていないオートベローズには、「AEペンタプリズムファインダー67II」を付けた67IIは取り付けられません。別売りの「接写リング外爪1号」と「スケール67II」をご使用ください。

No.1

絞りとシャッター速度の効果

写したい物［被写体］の適正露出を決めることは、シャッター速度と絞り値の組み合わせを決めることです。ところが、写したい物が同じ明るさであってもシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことにより写真の効果を変えることができます。

シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムに当たっている時間を長くしたり、短くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

シャッター速度が遅ければ、シャッターの開いている時間が長くなるため、もし、このとき写したい物が動いていれば、当然写したい物がぶれてしまいます。逆にシャッター速度を速くすると、動きのある物でも動きを止めて写すことができます。また、写したい物が動いていなくてもシャッター速度を速くすると、シャッターを切るときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐ効果もあります。また、川や滝、波などを低速のシャッター速度で写すと動感のある写真になります。

高速シャッター

低速シャッター

絞りの効果

絞りは、レンズを光が通るときの光束［光の太さ］を大きくしたり、狭くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

絞りを開いて光束を広くすると、ピントを合わせた物に対してその前後の物のボケが大きくなります。つまり、ピントの合う範囲［被写界深度］が狭くなります。逆に、絞りを絞って光束を狭くすると、ピントの合う範囲が広くなります。

例えば、風景の中で人物を撮影するときに、絞りを開いて撮影すると、ピントを合わせた人物の前後の風景のボケが大きくなるため、人物だけが浮かび上がる効果があります。

逆に、絞りを絞ると前後の風景にまでピントを合わせることができます。

小絞り側

開放絞り側

改造の受付について

下記の4項目は、巻末に記載のサービス窓口にご用命頂ければ改造（有料）を承ります。
（1）～（3）は、複数項目の改造であっても、同時にご依頼頂ければ料金は同じです。（4）は別料金となります。
詳しくは、サービス窓口にお問い合わせください。

（1）シャッター速度の0.5段階（0.5EV）改造

マニュアル露出時に設定されているシャッター速度に対して、±0.5段階の範囲でシャッター速度を設定できます。

（2）測光タイマー時間変更改造

測光タイマーの時間を5・10・20・30秒のいずれかに変更できます。

（3）ファインダー内への設定絞り値の表示改造

レンズの開放絞り値を入力すると、設定絞り値を表示させることができます。

（4）横吊り用ストラップ金具取り付け改造

カメラを横向きに吊り下げられるようにします。

改造時の注意事項

- 項目（3）の改造で、ファインダー内に絞り値が表示されているときは、フィルム枚数は表示されません。
- 項目（3）で、開放測光に対応していないレンズやアクセサリーでは、絞り値は表示できません。
- 項目（3）で、レンズで設定した絞りと、表示されている絞り値は必ずしも一致しません。